

不測の事態

「家を出た生徒が二人、まだ学校に到着していないんです。」
今朝こんな報告を受けました。すぐに「何かあったのだろうか」と心配になりました。事件や事故に巻き込まれたかも、という心配も生まれましたが、「二人」と聞いてその可能性は低いと考えました。やがて二人は登校しました。登校中に鼻血が出てしまった仲間を介抱して休んでいたら時間が経ってしまったということでした。仲間を気遣い、二人でその事態に対処していたことは、褒めこそすれ、決して非難することではありません。仲間を大切にする気もちがそのまま姿に表れた北中生のすてきな姿だと私は思いました。いつもの時間に、いつもの道を通って、いつもの仲間と登校するときに、思いもよらないことが起きるなどとは、だれも考えていないはずです。そんな時に生まれた思いもよらない状況を「不測の事態」と言います。人生の中でだれもが必ず一度は経験していることでしょう。

ちようど一年前でした。確か、八月二十一日だったと記憶しています。天気図を見る限り、大きな雨雲は学校近くにかかっていますんでしたので、私は生徒たちをいつも通り下校させました。しかしその後、その雨雲が突然動き出し、前が見えないぐらいの激しい雨が降り出しました。

この不測の事態に慌てふためき、車で職員を地域に走らせました。私も車を出して、ずぶ濡れになって歩いてる生徒がいないか、生徒たちに危険が迫っていないか確かめに走りました。

すると、私が車で走ったコースには、ほとんど生徒の姿はありません。「おかしいなあ。もう家に着いた子ばかりなのかなあ」と思って辺りを見回してみると、いました！いました！家の軒先を借りて雨が止むまで待っていた生徒、車が止まっていないガレージに入って避難している生徒……激しい雨の中を無理して走り抜けて帰ろうとしていた生徒がいなかったことにほっとしました。

幸いにも、けがをしたり事故に遭ったりした生徒はいませんでした。突然変わった天候に冷静に対処した生徒たちの行動は、危険な状況から自分を守る適切なものだったと思いました。

高校見学会に行こうとして電車に乗りました。すると、その電車は特急で、その学校がある駅に止まらないとわかりました。あなただったらどうしますか。

受験当日の電車の中で、カバンに入れたはずの受験票がないことに気付きました。あなただったらどうしますか。

どちらも、私の教員生活の中で実際にあった、生徒に関わる不測の事態です。「不注意だ」のひとことで済ませるのではなく、あなただったらどうするか考えてみてください。「迎えに来て！」「持ってきて！」という手段をとるのはベストではないと思いますよ。落ち着いて考えてみてね。本当に起こったら慌ててしまうからね。